

1 取組名称

Kibaco を利用した必修講義科目の単位実質化の推進
－双方向授業との相乗効果による能動的な学修習慣の醸成－

2 取組組織等

都市環境学部分子応用化学コース

3 取組実施代表者名

都市環境学部分子応用化学コース 准教授 山登 正文

4 取組年度期間

2017 年度（1 年間）

5 取組の概要

2016 年度教育改革推進事業の一環として PBL 型以外の授業においても主体的学修を促すための効果的な授業課題を課す手法として本学に導入されている e-learning システムである Kibaco を有効利用し、「単位の実質化」を見据えた能動学修を促すための支援システムを構築し、試行した。アンケート結果から“授業が分かりやすくなった”との意見が多く、授業の理解度が向上した結果として能動的に復習しようとするモチベーションが向上したものと考えられる。このことは、より能動的な学修習慣を醸成するためには、学生にとって“講義がわかる”ことが重要であることを改めて示していると思われる。能動的な学修習慣醸成のためには、WEB テストの充実に加えて、さらに講義への参加意識の向上に向けた取り組みも必要であるといえる。

WEB テストは「単位の実質化」に向けて極めて有効であるため、この取り組みの拡大推進は重要である。加えて、より能動的な学修習慣の醸成には授業自体にも主体的参加意識が持てる仕組みを導入することも必要である。そこで、下記の 2 つ取り組みを追加し、継続して行う。

1：分子応用化学コースの“すべて”の必修講義科目において WEB テストを整備し、「単位の実質化」に向けた取り組みを加速する。

2：クリッカー導入による双方向授業を実施し、授業中に学生が自ら考える機会や、気づきの機会を提供し、さらにそれを自ら発信する機会を提供する。

WEB テストによる予習は授業中に学生が自ら考える機会や、気づきの機会の充実につながる。WEB テストによる予習と双方向授業の組み合わせは授業内容の理解度向上や授業外学修へのモチベーション上昇に対して相乗効果を示し、学生の能動的な学修習慣の醸成へとつながると期待している。

※本取組は、「学長からの指定課題」区分における取組であるため、事後評価の対象外となる。